

関連項目：教育活動プラン①、④

異学年交流活動（色別活動）を通して、豊かな心や自己有用感を育てる

目的

本校は、児童数178名で1学年1学級の小規模校です。少人数であることの良さを生かして、縦割りの異学年交流活動（色別活動）を行うことを通して、豊かな心（自他を大切にできる心、思いやる心、協力、自立心）を育てるとともに、高学年がリーダーになり、自分たちの手で企画・運営することにより、自己有用感を高めたり達成感を味わわせたりすることができると考えました。

内容

本校の色別活動は、色別タイム（週1回水曜日朝8：05～8：25までのリレーや大なわとび）と色別集会（学期に1回程度の児童会活動）があります。今回は、2学期に行った色別大会（ミニ体育祭）を例に紹介します。

● 色別大会を行う意味について職員全員で共通理解を図る。

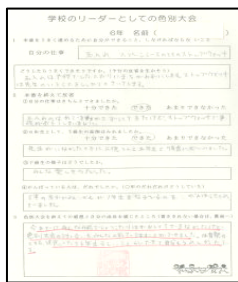
学年に応じたきちんとした取り組みができるように、活動の意味や評価の仕方について共通理解を図りました。また、児童会担当者から計画や経過を詳しく文書で知らせることで、同じ意識で各学年が色別大会に向かって取り組めるようお願いをしました。

児童会担当者が提案した実施計画案にある各担任へのお願いの一節

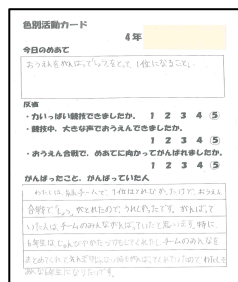
それぞれの学年に応じた具体的な子どもの姿を思い浮かべ、そうなるための手立て（話し合い、言葉かけ、自己評価カード等）を行ってください。めあてをしっかりとめ、自己評価や先生の評価を行い、次時のめあてをもたせたり意欲をつないだりするように心がけましょう。

● 児童自身による企画・運営をさせる。

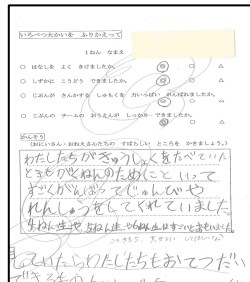
ミニ体育祭をきっかけとして、自己有用感をもたせたり、達成感を味わわせたりするためには、「下級生が楽しんでくれた」「自分の役割をきちんと果たすことができた」という思いをもたせなければなりません。そのために、事前の話し合いや振り返りを計画的に行いました。（リーダーの6年生は、3枚の振り返りカード活用、他の学年も振り返りカードを活用しました。）



〈6年〉



〈4年〉

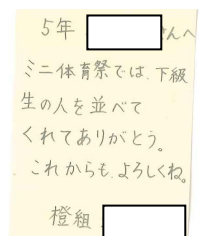


〈1年〉



● 色別大会をきっかけに異学年とのつながりを深める。

振り返りの内容に、協力してくれた人やよく頑張っていた人を紹介する項目を入れておくと、具体的に誰がどんなことをして、自分たちを助けてくれたかが分かります。その時の気持ちを、きちんとした言葉で伝えることは、同じ色のチームとしての連帯感を高めることになると考え、右のようなカードを作成し手渡しました。



成果

こうした取組をすることで、多くのリーダーの児童に「今まで6年生として、いろんな仕事をしてきましたが、今日のミニ体育祭は一番やりがいのある仕事でした。アイデア準備→最後まで6年生みんなが協力していたからこそ、無事終わったのだと思います。全校生みんなが楽しめているようにみえたので、とてもうれしかったです。」という達成感を味わわせることができました。効果を上げるためには、職員が同じ目的意識をもって児童の指導にあたることが大変重要です。